

平成29年9月22日（金） 校内研資料

1 「学び方 book」の活用

【効果 1】

4 5分間学習の流れがわかる。見通しが持てる。→学習意欲

【効果 2】

話し方 聞き方 読み方 調べ方 →言語スキルの定着

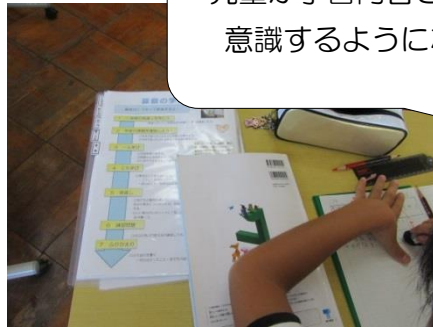
授業でよく使う言葉→「話し合ってください。」「友だちの考えを聞いてどう思いますか?」「自分の考えを発表しましょう。」

しかし、話し方、聞き方、まとめ方等、言語力を学年に応じて指導しているだろうか。

「学び方 book」でことばの力をつける。

児童が学習内容と時間を意識するようになる。

国語辞典の活用



2 個の応じた指導

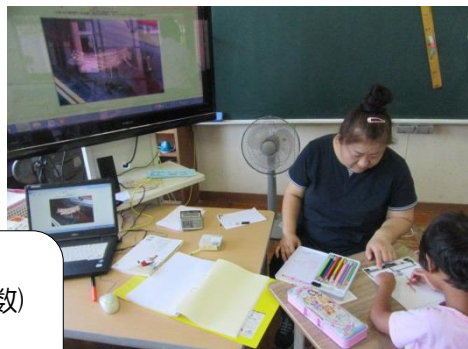
極少人数複式授業の困難さはあるが、個々の児童の課題を把握し個に応じた指導ができる環境にある。丁寧な指導を。



1・4年道徳（左）
1年 国語（右）
国語は視覚支援が必要



1年(国語)はまよう(算数)
同時学習



3 子どもの思考の手がかりとなる板書



【構造的な板書とは】

- ① 4 5 分の授業の流れが見える。
- ② 児童の思考が残る。
- ③ 児童が「といてみたい」「かんがえてみたい」と思う「めあて」具体物がある。
- ④ 文字が整っている。
- ⑤ 板書の流れが常に定まっている。

板書＝授業力
教材研究が表れる。

4 習熟の時間の確保

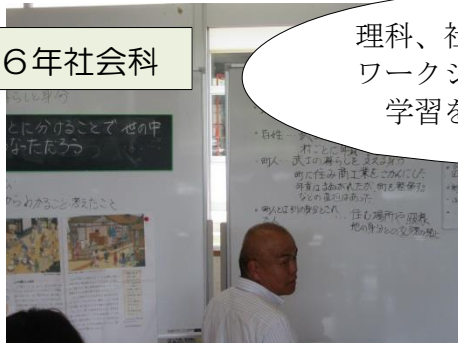
各教科授業スタンダードに則って

4 5 分間の授業の中で、5 分間は習熟の時間を確保し、児童の理解を把握する。
不十分なら宿題に出す。



6年社会科

理科、社会科等の教科は
ワークシートを用意し
学習を進める。



5 とも学び（学び合い）→学習リーダーを育てる【どの子ども学習リーダーになれる】



複式授業において、子ども同士で授業をすすめることが重要。複式授業の「とも学び」は単式学級でも大切な学習形態。友だちに教えることで理解は深まる。問題ができた子は友だちに教える。